



TITLE:

<批評・紹介> J. J. Gapanovich: Russia in North-Eastern Asia. Vol. I. Northern Colonization, its past and present. Peiping, 1933. (in Russian) pp. IX+186.

AUTHOR(S):

石濱, 純太郎

---

CITATION:

石濱, 純太郎. <批評・紹介> J. J. Gapanovich: Russia in North-Eastern Asia. Vol. I. Northern Colonization, its past and present. Peiping, 1933. (in Russian) pp. IX+186.. 東洋史研究 1935, 1(2): 140-140

ISSUE DATE:

1935-12-10

URL:

<https://doi.org/10.14989/138681>

RIGHT:

## 批評・紹介

J.J. Gapanovich: *Russia in North-Eastern Asia.*  
vol. I. *Northern Colonization, its past and present.* Peiping, 1933. (in Russian) pp. IX+186.

本書の著者ガパノフ氏はツングウス民族ネギダル民族などの研究者として名を知られてゐる學者で、オコツク海沿岸地方へは屢々調査に行つてゐるから、その調査報告なるものは信にして徴あるものと云へる。本書はカムチャツカ及びアナデル地方から北氷洋沿岸に至る地方の概要を人文地誌的に纏めた報告である。第一章、地理。第二章、歴史。第三章、土人。第四章、露人。第五章、外人、特に日本人アメリカ人。第六章、北方に於けるアメリカと日本。第七章、地方制度。これに英文提要と索引が附録してゐる。前半は調査を主とせる研究報告だが後半では北太平洋問題に論及し、露人は消極的で勢力を増すに至らないが、日本の出漁者は數と條約上の權利で絶大の力があり、アメリカは數は寡いが文明の力が看過

すべからざる勢を持つてゐるから、日米の爭覇がこの地方に如何なる作用を引起すかは注目すべきものであつて何れの勝利に歸しても遠隔なる地方の事であるから露には損失とならう、なんかと云つてゐる。太平洋問題は廣汎なる範圍を含有してゐるが、著者も北方漁業權が日本の生命線に觸れると云つてゐる程だから北太平洋問題も全太平洋問題の一の鍵である。百年以前既に本多利明が之を鍵と認めた我國では研究に注意してよからう。極北民族の研究も高橋盛孝先生以外にあまり聞えないのは寂しう。

(石濱純太郎)